NSPA JAPAN
The Natural Science Publishers' Association of Japan
自然科学書協会会報
発行人・後藤　武
編集・広報委員会
2012 10/15 NO. 4
http://www.nspa.or.jp/
一般社団法人 自然科学書協会　〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 神保町101ビル1階 TEL 03-5577-6301

自然科学書協会に期待すること
「良い本を沢山出版して下さい」
日本書店商業組合連合会会長　大橋信夫

専門委員会報告
自然科学書協会講演会 2012 報告
ほか

自然科学書協会に期待すること
「良い本を沢山出版して下さい」

日本書店商業組合連合会
会長　大橋　信夫

協会にお願いと言うよりは、協会の会員である各出版社さんにお願いすべきことは重々承知の上でお願い致します。良い本を沢山作ってください。「そんなことは人から言われなくとも、当たり前のことで、日々努力している」と言われると思います。そんな当たり前のことを敢えて言わないで居られないのが、今日のこの業界の状態だと、ご理解下さい。

日本書店商業組合連合会（日書連）では使っている紙袋にもデカデカと「本屋さんへ行こう！」と謳っています。

書店では、自分の店までお客様がお見え頂ければ、後は、自店の品揃えで勝負できる。店頭にお客様が見えないのが今日のこの業界の元凶と考えているお店もあります。

また、売れる良い商品が自分の店には来ない、だから思うように品揃えが出来ない、と言う声も聞こえます。確かに、これでは思うような商品構成は出来ません。

しかし、お客様が本屋に来られない、本当の理由はどこにあるのでしょうか。

書店の店頭の魅力がそんなに失せてしまったのでしょうか。

それくらい事態は深刻なのです。

何故、お客様は、本屋の店頭に立ち寄らなくなったのか、考えて見ようと思います。

一つには、お客様の懐がひと頃ほど豊かでない、つまり可処分所得が以前ほど無くなってしまった、ということです。景気が良くならないことにはこの問題は解決しません。

これは経済の問題で、そちらを専門に学んだ方々にお任せした方が良いと思います。

私は、理学部物理学科の卒業生です。大学と言いましても、チョイと古い時代（今から50年程前）の大学ですが、自然科学の教科書のお世話になり、勉強してきました。

物理学は物の理（ことわり）を学ぶ学問であると教わりました。そして、それは日々発展をしており、丁度、膨張を続ける薄皮饅頭の如きものと考えれば宜く、中の餡子の部分は歴史的物理の領域で、常識的知識の世界。餡子を包んでいる薄い皮の領域こそが現在の物理の研究領域で、君らに委ねられた領域です。そこでは仮説を立て、やがて実験によりこれが証明されたり、発見されることにより、薄皮の部分が一つ膨張します。

「知らざるを、知らずとす。これ、知るなり。」と古人が言っています。大変に哲学的な言葉ではありますが、これは、ここまでは分かっているが、ここから先は分からない、と言う事が分かる。と言う事は、つまり薄皮饅頭の皮がどこに在るのか分かることであり、これこそが、新たな知識を得ることの出発点で、それを知ったことは大変なことなんだ、と言っています。

この手法を用いて、何を称して「良い本」と言うのかを考えてみたいと思います。

「良い本」は「良い本」に決まっているじゃないか、と思う方は、失礼ですが、退場して頂きたい。その「良い本」が変化している事に気が付こうとしていないから。

以前から、「良い本」とは編集者が良いと考える本か、良く売れる本のことかという質問があります。この質問に対する答えは明確に後者です。そして、それには地域差、店舗差があり、何れも時間の変数だと言う事は理解されると思います。それはなぜか。お客様の好みが変わり、そして、ついにはお客様そのものが変わってしまうことまで視野に入れておかねばならないからです。

（株式会社東京堂　代表取締役会長）

専門委員会報告

◎研修委員会

研修委員会は会員社に対する研修会や一般の読者を対象としたサイエンスカフェの開催を通して、時流に沿った有益且つ必要な情報提供を行えるよう活動しております。

前期の研修委員会では、サイエンスカフェ及び講演会を合計三回開催いたしました。

まず、二〇一一年九月には三省堂書店と共催で「宇宙生命は存在するか」と題したサイエンスカフェを開催（参加者二五名）し、一一月には出版梓会との共催で「図書館電子化の現在」と題した研修会（参加者九〇名余）を、さらに二〇一二年五月には土木建築書協会と共催で「大学図書館と専門書出版社」と題した講演会（参加者五〇名余）を開催いたしました。

当期も引き続き、研修会及びサイエンスカフェの開催を主体に活動を行っていきます。

サイエンスカフェについては三省堂書店と協議を重ねており、二〇一二年一二月頃関西にて開催する方向で講師や会場の調整をしています。

研修会については現時点で具体的な開催予定はありませんが、引き続き出版梓会など関連団体との共催も見据えつつ、題材を早急に見出し、期中に研修会の開催にこぎ着けたいと考えております。これまでどおり、先生をお招きした講演型の研修会に加えて、施設へ出向く見学型の研修会も企画し実現できるよう委員会メンバー一同、鋭意努力して参ります。なお、研修対象として「これぞ！」というものがございましたら、是非研修委員会宛にご一報いただけると幸いです。

（委員長　長　滋彦）

◎広報委員会

広報委員会では、会報の発行（一月・四月・七月・一〇月の年四回）、自然科学書協会講演会の開催、協会活動のＰＲを主たる業務としています。

会報につきましては、巻頭ページを飾る各界の専門家による「自然科学の時間」では、自然科学にまつわる興味深い内容を掲載しています。また業界の重鎮から当協会に期待することと題し、貴重なご提案やご意見をご寄稿いただいています。今期も引き続き皆様にご興味を持っていただける内容にしていきたいと思います。

次に講演会ですが、従来は自然科学書フェアの期間中に同開催地区で（二〇一一年は大阪で開催）で行っておりましたが、二〇一二年はフェア（博多）とは分離し、東京での独自の開催を企画しました。今年は七月二二日に日本出版クラブにおいて開催しました。詳細につきましては、別掲に記載しておりますのでご参照ください。

ＰＲ活動は、協会の活動を業界紙等に報道してもらう働きがけを積極的に行いました。また協会のホームページ上の「ニュース・お知らせ」サイトでも報告をして参りました。これにより協会の活動が協会会員はもとより、業界内において広報されました。今後ともより一層の積極的なＰＲ活動を展開し、協会の活動を多くの人にご理解していただける工夫をしていきたいと思っております。

以上の活動におきましては、皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

（委員長　牛来真也）

◎国際委員会

昨年度事業としては、次の通りです。

二〇一一年八月三一日～九月四日開催の第一八回北京国際図書展示会（ＢＩＢＦ二〇一一）に出展。当協会からは、日本事務局であるトーハン経由で、共同ブースの自然科学書コーナーへ一七社一一〇点が出品された。協会としては共同ブース展示および数社の単独ブースも含めて、版権のオファーも活発であった。会員社発行の出版物を面陳し、自然科学系各協会の目録と各出展社独自の目録を展示し、それらは残らず配布された。

また、二〇一一年一〇月一二日～一六日開催の第六三回フランクフルトブックフェア（ＦＢＦ）の出版文化国際交流会の、当協会・出版梓会・大学出版部協会の共同ブースに、二〇社四一点を出展。

英文会員名簿を作成し、ブックフェアなどを通じて国内外の出版社等に配布し、翻訳出版活動への情報を提供しました。

さて、今年度事業も昨年同様、八月二九日（水）～九月二日（日）開催の第一九回北京国際図書展示会（ＢＩＢＦ二〇一二）に二〇社一八四点を出展。詳細は別報をお読みいただければ幸いです。

また、一〇月一〇日（水）～一四日（日）開催の第六四回フランクフルトブックフェア（テーマ国はニュージーランド）にも昨年同様、共同ブースに二一社四〇点を出展予定です。

今後も出版文化国際交流会、書協などと連携を図り、必要に応じて国際展示会に出展し国際化を促進したいと考えます。協会社各位のご協力を引き続きお願いいたします。

（委員長　曽根良介）

◎総務委員会

前期（第六一期）の事業報告と、今期（第六二期）事業計画の進捗についてご報告いたします。

前期は役員改選に伴い和文会員名簿を作成し会員の皆様にお届けしました。また、年末会員集会、新年会員集会等の諸行事も、会員の皆様のご協力により、つつがなく開催・終了することができました。新法人移行に関しては、特別委員会のご指導の元で法人移行の実務面を担当し、五月二二日には内閣府において一般社団法人の認可書の受領に立ち会うことができ、法人登記も期限内に無事完了しました。公益目的財産額の確定に関しては、第六一期決算書から同財産額を確定し、電子申請を済ませましたので、今後はこの公益目的財産を使って公益目的事業（継続事業）を継続するためのサポートを行います。

第六〇期から事務局に導入した会計システムは、日ごろの事務局の適切なオペレーションと、顧問公認会計事務所の適切なチェックによって、その運用も軌道に乗り、日常的な財務状況の把握はもとより、決算処理にかかる時間も大幅に短縮することができました。特に現在の経理処理は、新会計基準に準拠させるため、複雑な処理が日常化しており、その点、会計システムの運用が軌道に乗ったことは心強い限りです。

会員の皆様におかれましては、今後とも

協会活動ならびに総務委員会の活動にご理解、ご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。

（委員長　飯塚尚彦）

◎著作・出版権委員会

デジタル化とネットワーク化の進展に伴う著作物の多様な利用により、著作権に関わる問題も多岐にわたっており、前期は、文化庁委託調査事業として「学術用途における権利制限の在り方に関する調査研究」の名のもとに権利制限へ踏み出そうとする行政の動きがありましたが、事業としては大きな成果を得られないまま幕引きとなり、当協会会員社刊の自然科学専門書の著作権が脅かされる事態には至りませんでした。しかしながらこの調査を通して、使用者側の著作権に対する意識の低さも浮き彫りとなり、今後の著作権防衛強化が印象づけられました。

当協会が依拠している著作出版権管理機構（ＪＣＯＰＹ）は、著作権使用料の適正価格設定をＪＲＲＣに粘り強く働きかけましたが、ＪＲＲＣは専門書の使用料の改定に消極的なため、多くの当協会会員社としては当面ＪＣＯＰＹに使用料管理について委託する方向です。

違法な自炊行為はいよいよその広がりを強める傾向にあり、十分な監視、場合によっては抗議行動までもの対応が必要となってくるかも知れず、当委員会としても厳しくフォローしていく所存です。

このように、著作権・出版権にかかわる本委員会の今後の活動範囲は益々広く、重要です。関係各位のご協力と、臨戦態勢をもって、責務を果たしていきたいと考えます。

（委員長　小立鉦彦）

◎販売・出展委員会

当委員会は、「東京国際ブックフェア」と地方都市での「自然科学書フェア」の二つの事業を継続発展させる重大な任務を負っています。前者は出版界全体の催事の中で、後者は協会単独で大型書店の店売との連携で、読者とのより良い出会いと永続的な関係づくりの場をどう演出するかが大事だと考えています。

昨年は、第十八回東京国際ブックフェア（ＴＩＢＦ二〇一一）に出展、六一社三一六二冊を陳列し、自然科学書の普及を図りました。三・一一東日本大震災と福島原発事故によって開催が危ぶまれたものの、むしろ復興支援を前面に押し出した取り組みが必要との判断から当協会もこの趣旨に賛同して積極的に参加しました。本年も引き続き、抽選で五〇〇円の図書カードをプレゼントするサービスを行いました。

今年の第十九回「ＴＩＢＦ二〇一二」は七月五日～八日で、引き続き震災関連本を前面に押し出して自然科学書のＰＲを行いました。

「自然科学書フェア二〇一一」は大阪の紀伊国屋書店梅田店で開催しました。「リファレンスブック」をメインに「ハンドブック」「図鑑」をサブタイトルに加え、よりテーマを明確にして、平成二三年九月九日～十月十日の期間実施しました。出展社は四三社でしたが、紀伊国屋書店の好意で各社五銘柄までという上限をはずしたため前年比一八〇点増の二九一点を陳列することができました。

また、同二〇一二は丸善博多店で、平成二四年五月一日～六月二七日の期間「古典・最新刊が誘う自然科学の世界」というテーマで前倒し実施しました。

以上、会員各社のご協力により、ＴＩＢＦ、フェアとも成功に終わることができました。御礼申し上げます。

（委員長　伊藤富士男）

自然科学書協会講演会 二〇一二報告

七月二二日、東京都新宿区の日本出版クラブ会館にて、自然科学書協会講演会二〇一二が、参加者一〇六名を得て盛況のなか開催された。

開催にあたり、当協会の後藤武理事長からご来場いただいた方への挨拶からはじまった。

一つめの講演は、内田麻理香氏による「身近にあふれるサイエンス」。Ｗｅｂ上で「カソウケン（家庭科学総合研究所）」を一〇年前から運営してきた講師らしく、家庭生活を科学するという視点から、今回はキッチンにあふれる科学を、さまざまな料理の実例をあげてお話しいただいた。

野菜やくだものに含まれる天然の多糖類ペクチンの熱や水分と反応する性質を利用して調理や皮むきを上手に行う方法や、タンパク質に熱や力が加わることで性質を変える「タンパク質の変性」を利用した、焼く、捏ねる、塩や砂糖を加えるなど、日常的に意識しない調理法が実は科学的な原理に基づいたものであることなど、何気ない身近に潜む科学を改めて意識させられる講演だった。

二つめの講演は竹内薫氏による「宇宙はどうやってできたか、ブラックホールはどのようなものであるか」。つい最近、存在が確認されたと話題になった、物質に質量を与え宇宙生成の元になったといわれ、「神の粒子」とも呼ばれる「ヒッグス粒子」の理論や、タテ・ヨコの空間に時間軸を加えた「時空図」の考え方から宇宙を表した「宇宙図」の見方などを、最新の理論を交えながらていねいに説明された。

また、「重力」に関連して、ニュートンからアインシュタイン、ホーキンスのそれぞれの考え方の違いや、現代宇宙論との対比も紹介。ブラックホールについてはいまだに直接観測されておらず、電波やエックス線の観測により発見されたとされているブラックホールはすべて「候補」であるといった、壮大な宇宙の実態を把握することの困難さを、ユーモアも交えながらお話しされた。

今回の講師・内田氏、竹内氏とも、テレビ出演などにより知名度が高いためか事前参加申し込みが多く、開催日一週間前には定員一六〇名に達するほど多くの方に本講演会に関心を持っていただけた。ただ、当日は六〇名ほどが欠席となっており、参加費無料の講演会の運営の難しさを実感させられた。

今回の講演内容は、「身近な科学」と「宇宙の科学」という対極的なテーマだったが、両講演とも会場から積極的な質問も出され、自然科学全般への関心の高さをうかがわせる講演会となった。また、講演会終了後の参加者アンケートも八五％と回答率が高く、「今後聴いてみたい講演内容」には実にさ

まざまな分野の要望が多数寄せられた。今後、アンケート結果の分析を通して、広報活動のひとつの柱である本講演会を、より魅力あるものとしていきたい。

（家の光協会　吉原　隆）

北京国際図書展示会報告

第一九回北京国際図書展示会が、八月二九日（水）～九月二日（日）の五日間、中国・北京市の中国国際展覧センター（新館）で、中国新聞出版総署（国際版権局）ほかの主催で開催されました。

主催者発表によると、今回の展示会規模は、参加国・地域数七五カ国・地域（中国を含む）、二〇一〇の出版社（前年は一八四一社）、総ブース数は二二六二（前年は二〇〇〇）ブースで、入場者数は、TIBF二〇一二の約三倍の二〇万人（前年は一八万人）でした。今年度のテーマ国は「韓国」。六年で四倍強にふくらんでいる電子出版を中心に出展していました。

株式会社トーハンと株式会社東方書店が主宰する日本事務局によると、日本からの出展は当協会のほかに、単独ブースとして医学書院、メジカルビュー社、講談社、中央経済社など、共同ブースを含めて三八ブース一一六社で、海外最大級の規模となっているとのこと。

今回は、メジカルビュー社と共同ブースとなり、問口が三ブース分と拡がり、出品点数も二〇社から一八四冊と増えたおかげか、中国をはじめ海外出版社の訪問も多く、展示書籍の版権問い合わせも数件ありました。他の日本ブースでも連日活発に版権交渉の商談が行われており、日本書の翻訳ニーズの高さを感じました。弊社でも韓国・中国の出版社から後日、一〇数点のリーディング・コピーの申し込みがあり、出展効果を感じた次第です。

たまたま、土曜日に王府井の書店に行きましたが、店内は最近の日本の書店ではお目にかかれないほどの人・人・人で大混雑。活字に対する中国国民の意欲を強く感じました。

今回が初めての中国で、また諸問題からの日本人に対する国民感情を不安視しておりましたが、全くそのようなことはなく安心しました。が、スモッグと車の渋滞には参りました。

（国際委員会委員長　曽根良介）

■第六二期第一回定時（決算）総会開催

第六二期第一回定時（決算）総会が七月一九日一七時から日本出版クラブ会館で開かれ、第六一期の事業報告ならびに決算が承認された。当日は会員社七〇社から代表者三四名が参加した。（他委任状三四名）。

【第六二期理事会・委員会開催一覧（二〇一二年六月～九月）】

●理事会

・六月二一日（木）六月定例理事会／一五時～一七時　日本出版クラブ会館

・七月五日（木）七月臨時理事会／一二時～一三時　東京ビッグサイト

・七月一九日（木）七月定例理事会／一五時～一六時三〇分　日本出版クラブ会館

・九月一〇日（木）九月定例理事会／一五時～一六時三〇分　日本出版クラブ会館

●専門委員会

・六月二〇日（水）販売・出展委員会／一六時～一七時三〇分　文化産業信用組合

・六月二二日（金）広報委員会／一六時～一八時　コロナ社

・七月四日（水）監事会／一二時～一四時　文化産業信用組合

・七月一三日（金）販売・出展委員会東京国際ブックフェア運営委員会／九時三〇分～一六時　文化産業信用組合

・七月一三日（金）販売・出展委員会／一六時三〇時～一七時三〇分　文化産業信用組合

・九月一九日（水）広報委員会／一六時～一七時三〇分　コロナ社

■その他

◆七月五日（木）～七月八日（日）東京ビッグサイトにて「東京国際ブックフェア二〇一二」が開催されて、当協会も協賛し出展した。

◆七月二二日（日）日本出版クラブ会館鳳凰にて「自然科学書協会講演会二〇一二」を開催した。

■事務局だより

◆訃報

当協会で長きに亘り専務理事・常務理事・理事をお務めいただき、協会の発展に寄与されました吉野達治氏（裳華房）が、去る八月一四日ご逝去されました。享年七一歳。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

◆年末会員集会開催のお知らせ

当協会恒例の年末会員集会が、一二月六日（木）一八時より東京會館一一階ゴールドルームで開催されます。相互交流を深める夕べとして、会員代表者、各専門委員の皆様のご参加をお願いします。

〈代表者変更・当会代表者変更〉

●株式会社講談社サイエンティフィク

旧：代表取締役社長　柳田和哉

新：代表取締役社長　矢吹俊吉

〈当協会会員募集〉

自然科学書業界の健全な発展のために、志を一にする会員を募集しております。詳細は、協会事務局（sec@nspa.or.jp、〇三―五五七七―六三〇一）までお問い合わせください。

■第六一期／第六二期広報委員

〈担当常務理事〉

大畑秀穂（医歯薬出版）

〈委員長〉

牛来真也（コロナ社）

〈副委員長〉

田中久米四郎（電気書院）

〈委　員〉

吉原　隆（家の光協会）

福田　淳（医歯薬出版）

竹西素子（オーム社）

木村　隆（講談社サイエンティフィク）

矢吹俊吉（講談社サイエンティフィク）

大井隆之（コロナ社）

松田和貴（電気書院）

遠矢良太郎（南江堂）

増田素美（丸善出版）

編集後記

先日、「人相が悪くなったネ」と言われドキッとした。後ろに手が回るような事をした覚えはないが、何かしら自分の中に引っかかるものがあるような、ないような。俗人のうしろめたさか。

暮らしの中で、相手がどんな人間なのか、何を考えているのか、無意識のうちに「顔」から判断しているにも拘らず、そもそも自分の顔をまじまじと見る機会が少なくなったことに気付いた。夜遅く帰り、朝はいつもの電車の時間に合わせて家を飛び出す。こんな生活を長く続け、自分の「顔」をすっかり忘れていた。

一口に「顔」といってもその表情は絶えず変化している。人相は生まれた時からその人の自分史の中で形成されていくほか、時代、文化、環境、などにも影響される。そして感情の表現のみならず人格さえ映す。面従腹背とはいうものの、口で嘘はつけてもつい面に出る。互いが見えないインターネットに気を取られ、はたまた腹周りばかり気にして大事なことを忘れていた自分に気がついた。「顔」はコミュニケーションの大事な手段である。

いい「顔」は見るものに不思議な安心感をあたえてくれる。オリンピックでメダルを掛け、表彰台から手を振る選手の笑顔はなんとも言えぬ清々しさと包み込むようなやさしさがあった。それは相乗効果を生んで周囲を明るくする。くたびれた自分の顔とは雲泥の差である。自分の顔に責任を持たなければと反省するが、今の生活から脱却する決断もできない。歪んだ自分を想像することしかできない自分が情けない。こんな私がほんの一瞬心の闇として「顔」に悪相が見えたのかもしれない。さて、あなたは今どんな顔をしていますか。

（R・T）

東京国際ブックフェア報告

去る七月五日（木）～八日（日）までの四日間、東京ビッグサイト西ホールにおいて「第一九回東京国際ブックフェア（TIBF二〇一二）」が開催されました。当自然科学書協会は、例年と同じ二・五小間のブーススペースで出展し、展示・販売を行いました。

今年のブースの特長は、四年ぶりにリニューアルしてグリーンを基調とした明るいデザインに変更し、各自然科学分野の表示パネルの形状と設置場所を変更して、よりお客さまが見やすい展示となるように工夫をしました。また、展示台を強度の高いものに変更して、安全性にも配慮をしました。

加盟各社からの書籍・雑誌の出品冊数は、全加盟社七〇社のうち六一社からの出品があり、総展示冊数は二五八〇冊となりました。出版物は各分野別に展示を行い、その他に今年も特別展示コーナーを設置しました。特別展示のテーマは、昨年に引き続き、復興支援の取り組みと位置づけた「震災復興関連書」コーナーとしました。エネルギー、防災、耐震建築、都市計画、メンタルケアなどに関連する出版物を展示して、自然科学書の持つ役割を意識した展示を行いました。

また、ご来場された読者の方へのサービスにも取り組み、お客さまには大変喜んでいただきました。ひとつは、昨年もご好評をいただいた図書カードのプレゼントを実施いたしました。五〇〇〇円のお買い上げにつき一回の抽選をお客さまに行っていただき、当選された方には図書カード五〇〇円を差し上げました。このプレゼント企画は今年で三年目となりました。さらに、加盟各社に読者用のノベルティを提供していただき、ご購入いただいた方全員にプレゼントをしました。

会期四日間の売上合計は、四五三冊、一二〇万円余りとなり、昨年を若干ですが上回りました。なお、主催者発表による来場者数は、併催の「国際電子出版EXPO」などを含めて、六万六一一五人でした。

（オーム社　高田光明）

自然科学書フェア報告

昨今の寿命の短いベストセラーのアンチテーゼとして、『古典・最新刊が誘う自然科学書の世界』をテーマに掲げ、五月一日～六月二七日の期間、丸善博多店にて自然科学書フェアを開催しました。フェアに際し、会員社四二社から書籍二一一点、九五七冊が出品されました。

フェア会場の丸善博多店は、JR博多駅の商業施設『JR博多シティ』の八階にあり、平成二三年三月にオープンしました。書籍売り場面積は約六六〇坪あり、明るい店内には男女問わず世代も偏らない来店が見られます。実用書、ビジネス書、コミックが売上の主軸となる中、自然科学ジャンルでは医書、中でも「看護関連の書籍を求めて来店するお客様が多い」と売場長の前田氏は話していました。

フェア会場では棚が七段となる什器を六台使用し、什器が三台ずつ向かい合わせになるような形に設置され、黄色いフェア看板とともに、手づくりPOPを什器に貼りました。

各社から提出されたPOPに関して前田氏は「お客様へのアピールが弱いように思います。普段POPを作らない出版社が多いので仕方ないのですが、なぜこの本を薦めるのかを簡潔に表現できれば他にもいろいろ応用できるのではないでしょうか」と述べ、さらに「人文系の出版社では『著名人が薦める』というPOPをつけてフェアを行うところがあります。お客様がその本を買いたくなる動機付けをどう作るかをもう少し考えたほうがよいと思います」と、POP作りへの提案がありました。

面陳、背出しと書籍によって展示様式は様々でしたが、上階のレストラン街から降りてくるエスカレーターからの看板やフェア棚の視認性は良好でした。

フェアの告知のため、チラシおよびクリアファイルを作成し、同店のみならず、丸善外商部およびジュンク堂書店福岡店においても頒布をお願いし、集客を促進しました。

前田氏からは「思っていたよりも売れたと思います。フェアといいながら実質テーマがないので様々なジャンルのものが並んでいました。思わぬ出会いを少しは演出できたかと思います」とうれしい感想をいただきました。

フェア期間中の売上は、七五点、一一五冊で三六万九五〇〇円でした。専門書ならではの質・量を読者へ伝えることができたフェアでした。前田氏から指摘があったPOPの作り方などの反省点を踏まえ次のフェアにつなげたいと思います。末筆となりましたが、フェア会場を提供して頂いた丸善博多店、丸善外商部、ジュンク堂書店福岡店、参加社、各位に感謝します。（誠文堂新光社　御園英伸）